

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>
理工学部同窓会ホームページアドレス <http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

2009年度 同窓会会費納入のお願い

同窓会の運営は同窓会費によっておこなっております。同窓生の方は、今年度会費2,000円を同封の用紙にて下記の郵便口座へお支払いいただきますようお願い申し上げます。何卒宜しくご理解ご協力のほどをお願い申し上げます。(すでにお支払い下さった方は本文は関係ありません。)

郵便振込口座 同志社大学工学部同窓会 00990-0-151193

同志社大学 京田辺キャンパス

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3
理工学部・理工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800
理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0774-65-6804

同志社大学理工学部同窓会へのご質問、ご意見あるいは
本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。
同窓会事務局までご自由に連絡、投稿下さい。

2009年9月30日発行
同志社大学理工学部同窓会
発行者：上西 勝也
〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学理工学部内
理工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850
印刷：大枝印刷株式会社 Tel:06-6381-3395 Fax:06-6318-2000



DoKoネット

—同志社大学理工学部同窓会報—
第12号 (2009)



What's New!

2009年度 第21回理工学部同窓会総会とリユニオンのお知らせ

2009年10月31日(土)

京田辺キャンパス 京田辺カフェテリア(食堂棟2階生協食堂)

16:00～16:30 2009年度 理工学部同窓会総会

16:30～18:00 リユニオン懇親会

会費 2,000円(当日徴収)

本年は昨年までの今出川キャンパスでの「ホームカミングデー」と同時開催により皆様方のリユニオン活動を促進してまいりました。2013年度には京田辺キャンパスは理工学部中心の体制になります(文系学部の1, 2年生が京田辺から今出川へ移動します)。そこで同志社京田辺祭(愛称: ADAM祭～つながる ひろがる えがおの輪～)の1日目の行事に呼応して、理工学部同窓会総会とリユニオンを開催いたします。

理工学部同窓会ホームページアドレス

<http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

このページは理工学部同窓会情報と共に理工学部同窓会リユニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただけます。

次号同窓会報“DoKoネット”第13号は2010年10月に発行いたします。

ホームページの活性化に皆様のご協力をお願いします。

表紙写真: 2008年ADAM祭(京田辺キャンパス)

ごあいさつ

同志社大学理工学部同窓会

会長 上西 勝也

秋風とともに北山の山なみも、いち早く秋の衣に着替えています。そして間もなく毎日の時雨に見舞われることになるでしょう。この時期、同志社大学ではホームカミングデーが開かれ全学の卒業生が集います。

同窓会の目的は第一に卒業生の親睦をはかることです。理工学部同窓会では総会や大学全体のホームカミングデーなどを通じ親睦の機会を設けてきました。いまひとつ盛り上がりがありませぬ。とりわけ職場でもっとも活躍されている年代の人たちの参加がすくないのは残念なことです。会員数が4万人を越える大所帯になっていることが、その一因でしょうか魅力のある計画がないことも事実です。

昨秋、卒業生の皆さまから懇親会など行事について多数のご意見をいただきました。アンケートの返信は約1300名からありました。今後、このことを念頭に計画を立てたいと考えております。当同窓会は工学会のご要望により工学会から分離して発足しました。在学生と卒業生を一緒にの会にすることに問題があったからです。このことが、まだ充分周知出来てないこともアンケートを通じてわかりました。

約4万人の工学部卒業生全体の同窓会としてお世話になった母校に恩返しができることが望ましいのですが、まずひとりひとりができることは精一杯、社会のために尽くすことと卒業生間の親睦により一体感を深めることかと思えます。皆さま方の一層のご協力をお願いします。現在、同窓会の運営は、ほとんど学内の先生方に幹事としてお願いしている現状で、学外の幹事は総人数も実質活動できる人も僅かです。年に2, 3回、田辺キャンパスに来て意見をいただける人を希望しています。幹事としてご活躍できる方は自薦、他薦にかかわらず、事務局までご一報いただければ幸いです。

わたしは過日、京都北山にある常楽峠というところへ数十年ぶりに行ってきました。学生の頃には雲ヶ畑の棧敷ヶ岳を越えてよく行きました。今回は旧京北町の井戸という集落から歩きましたが、いまは峠まで林道があり軽トラックであれば、なんとか登ることができます。ところが峠から先が歩く道さなくなっているのです。イバラとクマザサの藪で一たん入り込めば身動きがとれません。仕方なく引き返しましたが帰りの道、峠を振り返ると暗い杉木立にぽっかり明るい窓が開いて青空が覗いています。なんとなく当同窓会の行く末を思いました。同窓会も発足10年、峠にさしかかり、この先には相当の困難が予想されますが、なんとか乗り切りたいと思います。

(昭和37(1962)年電気工学科卒)



京都北山の常楽峠

理工学部紹介

インテリジェント情報工学科, 情報システムデザイン学科

2009年4月からインテリジェント情報工学科は1年生87名、情報システムデザイン学科は1年生93名を迎えました。インテリジェント情報工学科は2年生88名、3年生132名、4年生119名、情報システムデザイン学科には2年生92名、3年生98名、4年生110名が在籍しており、両学科で合わせて計819名の学部生が勉学に励んでおります。2008年度に知識工学専攻から名称変更を行った情報工学専攻には大学院生161名が日夜研究に勤しんでおりますので、総勢980名の学生が情報分野の技術者・研究者を目指しております。就職についてはリーマンショック以降の経済状況を受けて例年よりは厳しいものがありますが、それでも広い分野で活躍できる情報系の技術者の特徴を発揮して8月初旬で院生就職希望者の90%が企業から既に内定を得ております。教育体制としては、長年教育研究指導にご尽力いただきました河岡司教授と鈴木智也専任講師は2009年3月末で退職されましたが、4月より新たに、土屋誠司助教、西田昌史准教授、吉見真聡助教の3名の先生方が着任されましたので各研究室は以下の通りとなります。〈インテリジェント情報工学科〉情報数理工学（渡辺陽一郎教授・程俊准教授）、情報システム学（金田重郎教授・芳賀博英教授）、知識情報処理（渡部広一教授・土屋誠司助教）、知的機構（柳田益造教授・坂東敏博准教授）、知的デザイン（三木光範教授・吉見真聡助教）、知能メカトロ情報システム（橋本雅文教授）、〈情報システムデザイン学科〉社会情報学（下原勝憲教授・Ivan TANEV准教授）、知能メカトロ情報システム（高橋和彦教授）、共創情報学（片桐滋教授・大崎美穂准教授）、知能メディア情報（大久保雅史教授・土屋隆生教授）、ネットワーク情報システム（佐藤健哉准教授・小坂隆浩専任講師）、音声言語処理機構（山本誠一教授・西田昌史准教授）。

教務主任 山本 誠一

電気工学科, 電子工学科

本年度の入学生は、電気工学科74名、電子工学科97名、電気電子工学専攻（前期）67名、後期2名です。総数としては、電気工学科396名、電子工学科434名、前期157名、後期11名の学生が、将来の有望な技術者の卵として、勉学および研究に励んでいます。

2008年度に工学部から理工工学部に改組し、本年度2年目です。電気系学科では、基礎教育のさらなる充実が急務であると判断し、本学科における根幹科目である「電気回路学」と「電気磁気学」については、特に十分な演習時間を確保して理解度を向上させるために、週3コマ体制に変更しました。また、導入教育を目的として、1年生に対して「ゼミ演習」を新設しました。従来のアドバイザクラスの機能も持たせるために、教員一人の担当学生数は8名程度とし、主に数学、物理、電気回路などの補習を兼ねた指導を実施しています。まだ2年間の実績しかありませんが、入試形態に対応して多様化する学生の質を一定のレベルに引き上げる効果が得られているように思われます。さらに来年度からは、3年生の秋学期に開講されている「電気工学実験Ⅱ」および「電子工学実験Ⅱ」において、卒業研究へのスムーズな移行を図るため、新たな試みとして、プレゼミ配属を計画しています。

理工学部紹介

就職については、就職委員・加藤利次先生から、「全般的に不況の影響はありますが、院生は好調で、学部は奮闘したと思います。また、大学院進学希望者が増加したことも特徴の一つです。」とのコメントを戴きました。進路の概況は、次のとおりです。学部生については、進学120名（内、他専攻7名、他大学院19名）、就職内定65名、公務員志望6名、教員志望1名です。大学院生については、就職内定88名、進学1名です。

2009年3月には、戸高敏之先生および実験実習センター・森延孝先生が定年退職されました。両先生の長年のご尽力に、心からお礼申し上げます。改組に伴い所属が変更になっている先生方もいらっしゃいますので、教員の陣容について、ホームページでご確認できれば幸いです。

最後に悲しいニュースですが、ト部泰正先生（80歳）が2008年12月15日、瀧山敬先生（89歳）が2009年7月1日に永眠されました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

教務主任 藤原 耕二

機械システム工学科, エネルギー機械工学科

2008年度、わが国の産業構造の変化・多様化や少子化に対応するため、工学部は再編・改組され、新たに理工工学部となりました。その際、機械系学科は定員を削減し、1学年160名（機械システム90名、エネルギー70名）になりました。初年度は182名、2年目の2009年度は、新一年生として両学科合わせて155名（機械システム88名、エネルギー機械67名）が入学しました。経済の急激な悪化から、両学科共に若干定員を下回りましたが、実質5倍を超える高い競争率の受験に合格した新入生です。一方、機械系学科では、能力を有する学生にはできるだけ大学院（工学研究科機械工学専攻）に進学するように奨めており、2009年度は87名が大学院に入学し、現在2年生と合わせて合計173名が博士課程前期（修士）在籍しています。また、人数は少ないものの10名が博士課程後期（博士）に在籍しています。この機械工学専攻では、2008年度の文部科学省の大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）として「安全・安心」をキーワードとした大学院教育プログラムが採択されました。2007年度の電気電子工学専攻に続いての採択であり、同一大学からの連続採択の例は少なくありませんが、同一研究科から2年続けて採用された例は無く、工学研究科の誇りです。このプログラムでは「安全・安心」の設計技術者を養成することを目的に、新しく設定された課程（コース）の下、選抜された二十数名が“Safety Engineering”（英語による講義）および弁護士や政府機関に所属する外部専門家によるリレー講義“技術者倫理”の二つの特別講義を受講することで「安全・安心」に対する基礎知識を身に付けます。さらに、フィールド実習として企業に派遣し、事例（事故）調査（1年次）、KY（危険予知活動。2年次）を行います。これにより、企業の「安全・安心」に対する取り組みを学びます。さる3月に「安全・安心」GPワークショップを開催し、（財）中央労働災害防止協会や（独）労働安全衛生総合研究所の方々などで構成される外部評価委員からも高い評価を受けました。今年度は、国内外の企業で2～3週間のKYインターンシップを行います。課程修了後は講義と体験実習で培った経験と知識を礎に社会で貢献できる人材となることを期待しています。文部科学省からの補助対象期間は3年間のため2011年3月には終了しますが、機械工学専攻ではその

理工学部紹介

後も継続して実施出来るよう教員も一丸となって取り組んでいます。今後、本課程を継続させるためには同窓会メンバーの方々を中心として、関係する企業にご協力をお願いすることが重要かと考えておりますのでご支援よろしくお願い致します。

教務主任 田中 達也

機能分子・生命化学科，化学システム創成工学科

工学部から理工学部への改組に伴い、機能分子工学科と物質化学工学科から標記のように改組後2年目を迎えております化学系2学科（入学定員各80名）は、それぞれ、「分子の性質を活用して先端領域を開く——次世代を担う化学のスペシャリストへ」と「化学と化学工学を使いこなして、人と環境にやさしい化学システムの創成をめざす」をモットーに、教育・研究に従事しております。両学科の6月末現在の学生在籍数は954名で、その内訳は、機能分子・生命化学科では、1年生107名、2年生87名、3年生以上卒論未配属を含め165名と卒論配属生130名を合わせて489名、化学システム創成工学科では、1年生88名、2年生105名、3年生以上卒論未配属を含め166名と卒論配属生106名を合わせて465名となっています。一方、工業化学専攻博士課程（前期）では175名（そのうち修士1年生90名）、博士課程（後期）では新たに3名が加わり11名の大学院生が研究に励んでいます。本年度の特筆すべき動向として、来年度大学院前期課程の受験者数が140名を超える（進学率60%に匹敵する）状況が挙げられますが、これは、卒業生の皆様もお察しの通り昨年秋以来の世界的不況の影響で、昨年度までとは打って変わり、就職状況が芳しくないことも要因です。今後とも益々のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

化学系新任教員として、本年度4月から京都大学より青山安宏教授を機能分子・生命化学科にお迎えし、また昨年度着任された北岸宏亮助教が本年度9月1日から1年間の予定で米国スク립ス研究所に在外研究で出かけられます。改組後の各学科7研究室体制がより強化され、以下のような研究室（担当者）構成で研究しております。【機能分子・生命化学科】電気化学（田坂明政教授・稲葉稔教授）、高分子化学（東信行教授・古賀智之准教授・松本孝広実験講師）、無機合成化学（廣田健教授・加藤将樹准教授）、機能有機化学（加納航治教授・北岸宏亮助教）、物理化学（上野正勝教授・伊吹和泰教授）、生体機能化学（水谷義教授・青山安宏教授）、分子生命化学（小寺政人教授・人見穰准教授・大西慶一郎実験講師）、【化学システム創成工学科】粉体工学（日高重助教授・白川善幸教授・下坂厚子実験講師）、移動現象（森康維教授・土屋活美教授）、材料システム（高野頌教授・伊藤正行教授）、生物化学工学（近藤和生教授・松本道明教授）、計測分離工学（塚越一彦教授・橋本雅彦准教授・田村隆実験講師）、分子化学工学（塩井章久教授・伴貴彦助教）、数理解析（堀内龍太郎教授）。

教務主任 土屋 活美

理工学部紹介

環境システム学科

環境科学科は、設立から昨年3月までのわずか4年の間に4名もの教員が学科を去るという異常な事態を経験しました。しかし、この時期になってようやく環境システム学科にふさわしい新しい教員が着任し、環境の諸問題を扱う学科としての陣容が整ってきました。これから環境システム学科としてその存在を社会に示し、学生諸君に落ち着いた指導ができる態勢に入ったということが出来るでしょう。現在は、任期付き教員を含めて11名の教員が教育・研究に励んでいます。

研究室を紹介しますと、「地球システム科学」（林田 明教授・福間浩司准教授）、「環境保全・防災科学」（増田富士雄教授・横尾頼子専任講師）、「新エネルギーシステム」（伊藤靖彦教授・後藤琢也准教授）、「環境システム工学」（盛満正嗣准教授）、「人間環境」（山下正和教授）、「地球環境」（山根省三准教授）、「生命環境保全」（武田博清教授・光田重幸准教授）の7研究室があり、それぞれが大学院生や卒論生の指導に当たっています。

この学科は、自然科学分野の横断的な知識を基礎にして、地球と生命と人間社会にかかわる複雑なシステムを探求し、自然環境の保全や豊かな生活環境の創造に貢献できる広い視野を持った人材の育成を目的としています。このため、教育カリキュラムでは、理工学全般の基礎となる「基礎・共通科目」を初年次に、「地球環境分野」と「人間環境分野」の2領域の選択科目を高年次に配置しています。さらに4年次では、「卒業論文」の作成を通して第一線の研究を行っています。

2008年4月の工学部から理工学部への改組再編にあわせて、自然環境についての理解を深めるための理学系科目と工学系科目とをそれぞれ充実させ、学生の履修状況によって「工学士」または「理学士」のどちらかが取得できるカリキュラムを提供しています。

環境システム学科は、2008年3月に最初の卒業生を送り出し、本年の3月には第2期生が巣立って行きました。この2年間は就職も好調で学生諸君はさまざまな職種に就職し、また半数に近い学生が大学院の工学研究科数理環境科学専攻や生命医科学研究科に進学しています。でも今年の4年生は社会状況の影響で御多分に洩れず、これまでよりは少し苦戦しているようです。

教務主任 山下 正和

数理システム学科

数理システム学科は、工学部が理工学部にも再編される際に新設された新しい学科で、学生定員40名の小さな学科です。現在2年次生42名、1年次生56名が在籍しています。学科設立の主旨は、現代の様々な科学を支える数理学科について理論から応用まで幅広く学ぶ場を与えることです。設立に際しては当時同志社大学工学部に在籍していた、押目（機械系）、溝畑（化学系）、齋藤、岡崎（ともに情報系）、渡邊（電気系）の5名に加えて、名古屋大学から応用数学会の会長（当時）三井先生、京都大学から副学長（当時）の丸山先生、ニッセー基礎研究所から津田先生をお迎えして、8名の教員で発足しました（丸山先生の着任は10月）。学科の研究室は大き

く分けて数理（丸山，押目，溝畑，岡崎），情報統計（齋藤，津田）及び応用数理（三井，渡邊）の3つの分野に分けられており，幅広い数理科学の分野を教育する体制となっております。しかし不幸なことに今年3月丸山先生が着任半年余りで，突然ご病気で倒れ，そのまま亡くなりました。丸山先生は代数幾何の重鎮として有名な方であり，期待も大きかっただけに極めて残念です。

在学生の将来の希望を聞いてみますと約半数が中学高校の数学教員と答えています。また，残り半数のなかでは金融系やソフトウェア開発などの希望が多くなっております，このような希望は，学科設立以前から旧工学部内の諸学科に潜在的に存在したものが，新学科が出来たことにより新たな受験生層を取り込み顕在化したと考えるとほぼ予想通りです。教職については少子化のため中長期的には競争の激化は避けられず厳しい状況にあり，なんらかの対策を講じる必要があると考えています。さらに，教職以外の就職先をどのように開拓するかという点も学科に課された重要な課題です。学科のカリキュラムにおいて，コンピュータを用いた実習を必修科目として多く配置しておりますが，そのような科目を設けた一つの理由は，就職に少しでも役立ってくれたらありがたいという我々の願いです。また他学科科目を多く選択科目として指定しておりますが，それは学生が広い分野に興味を持つことを期待してのことです。我々の学科は出来たばかりで，社会的な認知度はまだ低い状態です。工学部卒業生の皆様におかれましては，このような学科が理工学部にあることを頭に入れていただき，何かのときにでも思い起こして頂けたら幸いです。

教務主任 渡邊 芳英

ひとことエッセー

人道支援のNGOに関して<ICT利用による途上国支援>

馬場 秀雄

私は昭和42年に電子工学科を卒業し通信業界に就職しました。当時は電話の全国普及を第一の目標としていた時代でしたので国内の通信ネットワークを拡充発展させる事が全社挙げての目標であり使命でした。私も微力ながらネットワークの技術調査や計画分野で通信網拡充に貢献したと思っております。しかしながら，大学時代に学んだ英会話を活かしたく若い時から海外にあらがれていた私は国際関係の業務を望んでおりました。その内に1985年通信事業の規制緩和が

始まり，幸運にも新たな国際通信会社設立と云う壮大なプロジェクトに関わる事ができました。そして創設された会社との関りはその後20年程続きましたが，経験のない分野での仕事の為当初は手探りを伴う案件も多く，生みの苦しみを経験しました。しかし念願であった国際舞台に登場でき北米，西欧，東南アジア，オセアニアの同業種の人々との交渉，協調を通して友好的な交流が出来ました事は人生の貴重な経験でした。

定年後はそれまで培った杵柄を活用でき，且つ学生時代と実務で鍛えられた語学力を活かせる場として，ユニークな活動をしているNGOを紹介して頂きました。BHNテレコム支援協議会と云う，通信事業会社や関連会社のOB達が16年前に設立されたICTを活用して人道支援を基本とする団体です。

私はこの団体に関与して以来まだ具体的な案件は日の目を見ておりませんが，広い世界の中でBHNが提供出来る技術や手段により，困窮している人々のNeedsを少しでも満たすべくその立上げに奔走しております。そう云う中今年初頭，外務省プログラムの一環でNGO活動のあり方について先進国である英国にて勉強する機会を得ました。2ヶ月間の滞在研修の目的は，支援プロジェクト評価の方法，NGO組織のあり方，人材育成等でしたが，それ以上に感銘を受けた事は，欧州の人々のNGO活動に対する姿勢と考え方です。

NGOは基本的に，企業は元より多くの市民からの寄付行為により成り立っています。そしてその活動も，奉仕の精神を持った人々の働きで機能しています。今回研修を通じて約50カ国からのNGO活動従事者と知り合いになりましたが，彼らの考え方や行動様式を見ていて，NGO世界はその存在感としてビジネス社会と同等のものである，と云う認識を強く持ちました。即ち，利益追求のビジネス社会と同等に，利益を追求しない支援活動の大きな社会が共存している様に感じたのです。

これら社会の根底にはやはり宗教の影響が強くあるのではないかと考えさせられました。欧米のNGOは政府や企業からの財政支援も大きいですが，それと同等の寄付や労働奉仕が一般市民により提供されています。

私は高校に入って教科や礼拝を通して初めてキリスト教に触れ，そしてキリスト教精神に基づく大学での4年間を修めました。これまでキリスト教や同志社の精神を意識して日々の業務に取り組んできた記憶はありません。今ここに来て，学生時代に同志社の校風に触れ気付かぬ内に体得していたものが私の人生の一指針となり，行動に移している事はあながち偶然ではない様にも思えます。

私自身出来得る事は微々たるものですが，人間としての生活が困窮状態にある大きな世界のあることを如実に知った今，僅かでもそれらの問題解決に寄与できればと考えております。

今日本は，経済の縮退と言いながらも衣食住は元より物質的に満たされた生活に浸っています。自由経済の仕組みの中で，社会は更なる欲望を満たそうとする人間の本能に訴えて利益を得る為の情に満ち溢れていますが，これら第三国での目を覆いたくなる実態に触れる事は稀有です。



ひとことエッセー

私は、公共メディアがこれらの情報をもっと多く世の中に知らしむる報道を行って欲しいと思いますが、我同志社の同窓の皆様には、この地球上で貧困にあえいでいる人達にもっと目を向けて頂き、様々な形態が考えられる人道的支援に関わって頂ける事を願望致します。

(昭和 42 (1967)年 電子工学科卒業：現 BHNテレコム支援協議会 参与)

モノづくり力を追い求めて

小原 英也

私は、1984年に工学部の機械工学科に入学し、自身のモノづくりということでのスタートとなった。その後、大学院工学研究科機械工学専攻に進み、1990年機械工学修士を修了し、モノづくりにこだわって重電電機メーカーに入り、開発・設計・製造と一貫してモノづくりに関わってきた。

当然ながら、モノづくりに対して、小さいころから憧れていた職業であり、小学生時代の作文を見ても、『設計技術者になりたい』とか『未来の乗り物をこうしたい』等を夢見ながら書き綴っている。本件、晴れて夢が叶った訳ではある。

また、会社生活においても、ギネスに登録された製品の開発にも携われることができ、夢を追うようなことが仕事でも実現でき、非常に幸運であると感じている。

現在は、製造部門で、設計・開発時とは違った、品質 (Q)、コスト (C)、納期 (D)、サービス (S) の軸での改革、改善ということに取り組んでいる。いわゆるモノづくりの現場側での、深層の競争力を向上させるために、品質力、原価力、供給力という視点でチャレンジし、日々継続的にモノづくり強化を推進している。特に、日本が得意とするボトムアップとトップダウンの両輪により、FACE TO FACEでのコミュニケーションとチーム活動を重視し、日々継続的にP D C A (PLAN-DO-CHECK-ACTION) サイクルをまわすことを習慣づける組織づくりを目指している。



まだまだ日本のモノづくり力は、偉大である。昔からあるT P, T P M, I E等手法や小集団活動が、今更ながら再認識されている。先人の知恵を駆使し、これからも日本の強みでもあるモノづくり力強化という視点で、夢を追いかけてながら、迅速かつ継続的に取り組んで行こうと思っている。やはりモノづくりは奥が深いだけに、非常に面白いものであると、ますます感じる今日この頃である。

(昭和 63 年機械工学科卒、平成 2 (1990)年 機械工学専攻修了：東芝エレベータ(株) 府中工場長)

ひとことエッセー

輝かしき同志社

東城 哲朗

同志社を卒業し、早、25年が経過しました。この間、1985-86年の2年間Alexander von Humboldt Stiftung 給費留学生として西ドイツ(当時)Göttingen大学無機化学研究所(H. W. Roesky教授)で研究生生活をした後、1987年より東洋炭素株式会社、技術開発本部に奉職後、現在に到っております。

同志社時代は、希望した電気化学研究室に配属され、山下正通、田坂明政両先生に大変お世話に成りました。今出川の扶桑館4階に実験室があり、反応系が固(電極)液(電解液)界面で時間が掛かり、速度論のデータ取りのために、分析を定期的に行うために、月曜から金曜まで学校に泊り込んで実験をしたのを懐かしく思い出します。開けの金曜日は、烏丸今出川西入る、「巴里」、諫山ママの「出世払い(??)でええわ」の太っ腹発言に徹底的に甘え、皆で、大挙して押しかけ、深更に到るまで、大いに飲み、謳い、氣勢を揚げました。その間、卒論生、院生と同じ釜の飯を食べたよしみで、深い絆で結ばれるのは、当然の成り行きでした。一家言を持ち、お互い助け合い、励ましあい、切磋琢磨した仲間(1979卒業生)から、「この時間共有を、いつまでも留めたい。」と言う、強い要請が出て、私が会長となり、OB・OG会が発足しました。日々、研究室から眺めていた比叡山にちなみ、それを、「比叡会」と命名しました。

記念すべき、第1回「比叡会」は秋たけなわの清滝「銀水亭」で開かれました。京都の秋を満喫出来たのは良かったのですが、ここは、所謂、「おしのび旅館」であったようで、我々の「過ぎたる元気が、他のお客様に多に影響した。」と後ほど知り、恐縮した次第です。この会も、30回を数え、会員は500名を越え、現在でも毎年、秋に挙行されております。昼には、田辺校地にてOB現役の合同講演会を行い、市内で夜の懇親会を行うのが、会の内容です。田坂明政先生、稲葉稔先生のご理解、および、現役、院生の事務局対応に助けられて続けております。

新島襄先生の精神、「良心ノ全身ニ充滿シタル丈夫ノ起コリ来ラン事ヲ」を旨に、今後も同志社を心の拠り所として、精進したいと存じます。

(昭和 51 [1976]年工業化学科卒、昭和 53 (1978)年 工業化学専攻修了：東洋炭素株式会社 FC事業部)

同窓会活動・リユニオン

アンケート集計結果

昨秋、卒業生の皆さまにアンケート調査をさせていただき、その郵送数 22,330 枚で返信数 1,320 枚を頂きました。学内研究施設の見学希望が圧倒的多数で、ついで学術講演、ご子弟が大学に興味をもつような行事などを希望されていました。

①今後の連絡方法

- A. 電子メール希望：827 名（内 11 名アドレス不明）
- B. 郵送希望：404 名、連絡不要：17 名、ご逝去：32 名

②行事についての希望

- (1) 工学系講演会 332 名
- (2) 学内研究施設の見学会 381 名
- (3) 同窓会HPに各ゼミの窓口開設 265 名
- (4) 子弟が同志社に興味をもつような行事 261 名
- (5) 各地方支部の開設 171 名
- (6) その他希望される行事 22 名

(6)の行事内容

単身でも参加出来る気楽な行事／同窓会HPに各学科の活動状況／東京で工学部系の紹介／東京で学部開設（東京分校）／研究テーマをカミングデーに講演／企業施設見学会／SNSの開設。同窓生同志が自由に話が出来たら／慶應が行っている様な社会に向けた同志社の研究発表会／卒業年度においての同窓会／環境セミナー／卒業年度、学科別小単位の同窓会／同志社の知名度UP／研究成果、講演会など／他学部の講演会等／学園祭／産学共同セミナーのような行事／東京開催セミナー（スポーツと同志社大学）（余暇と教養（大学の役割））／EVEの展示案内／全学での行事等／国際交流に関する取組やイベント／社会情勢に即した有名人の講演／学園祭によく来たミュージシャンを呼んでのコンサート／能、雅楽、狂言をホールで開催

（無記入） 1,298 名

③今後のCD名簿の購入について（次回 2010 年頃、3,000 円程度）

希望する：194 名、希望しない：700 名、内容が充実するまで保留：305 名、無記入：121 名

2008年度 理工学部同窓会幹事会記録

- 2008 年 3 月 22 日 11 時から卒業式に先立ち紫苑館 1 階生協食堂にて新任の同窓会委員懇談会を開催した。
- 2008 年 4 月 26 日総会開催に先立ち 2008 年度第 1 回幹事会を開催し、総会の議題について審議を行った。
- 2008 年 5 月 31 日に第 2 回幹事会を開催し、会長の方針に基づいた活動状況と今後のスケジュールについて審議を行った。
- 2008 年 11 月 9 日第 3 回幹事会を開催し、経過報告、今後のスケジュールについて審議を行った。

2008年度 理工学部同窓会総会の報告

2008 年 4 月 26 日京田辺キャンパス夢告館 101 番教室で開催され松岡 敬（理工学部長・教授）「理工学部への名称変更と新体制について」のご挨拶をいただきその後以下の議事を審議。

- (1) 2007 年度事業報告、2007 年度会計報告、2008 年度事業計画、2008 年度予算案を承認した。
- (2) 岡会長退任挨拶、上西新会長就任挨拶ならびに事務局紹介。その後、講演会を開催した

同窓会活動・リユニオン

北垣宗治氏（同志社大学名誉教授、元敬和学園大学学長）にお願いし、演題は「理化学校をめぐる人々－ハリス、下村、デヴィス」レジュメ：新島襄の晩年に米国のクリスチャン実業家 J.N.ハリスが、キリスト教主義に基ずく科学技術教室を支援するため、同志社に 10 万ドルの寄付を申し出たことは、当時として画期的なことであった。これには同志社の宣教師だったラーネッドやデヴィスの存在を無視することができないが、更には米国に留学中の同志社の卒業生、下村孝太郎に対するハリスの信頼が極めておきかかったことも大きく寄与している。設立後の理化学校をめぐるトラブル等についても紹介があった。

その後、場所を紫苑館 2 階教職員ラウンジに移し懇親会を行い、参加者の交流の場を持つことが出来た。

2008年度 理工学部同窓会リユニオン

2008 年 11 月 9 日(日)に予定していたリユニオンは内容再検討の為見送りとなった。

2009年度 第 21 回 理工学部同窓会総会のご案内

今年度は 2009 年 10 月 31 日(土)京田辺キャンパスでの同志社京田辺祭 2009（愛称：ADAM 祭）にあわせ総会とリユニオン懇親会の開催を予定しております。昨年までの今出川キャンパスでの「ホームカミングデー」と同時開催により皆様方のリユニオン活動を促進してまいりました。現行 2 校地体制の同志社大学では 2013 年度に文系学部の 1, 2 年生が京田辺から今出川へ移動し（同志社中学が岩倉校地移転により）、京田辺キャンパスは理工学部を中心としたキャンパスになります。他の学部として生命医工学部、文化情報学部、スポーツ健康学部、心理学部、グローバル・コミュニケーション学部 [2011 年開設] の体制になります。京田辺キャンパスを皆様になじんでいただくことを考えております。

同窓会リユニオンは会員の横の交流として学年の 5 N 周年同窓会を、この機会に 2 次会として企画くださるよう期待致しております。今年の 5 N 周年は S 29, 34, 39, 44, 49, 54, 59, 64, H 6, 11, 16 年卒業の皆様です。卒業生の皆様がキャンパスに集い、ゼミの同窓生会員とまたクラスメートとの再会と出会いの中でいっそう母校とのきずなを深めていただきたいと願っております。

日時：2009 年 10 月 31 日(土) 16:00 から 18:00

場所：京田辺キャンパス 食堂棟 2 階 京田辺カフェテリア（生協食堂）

16:00 ～ 16:30 2009 年度理工学部同窓会総会

決議事項

- 1. 2008 年度事業報告の件
- 2. 2008 年度取支決算報告承認及び監査報告の件
- 3. 2009 年度事業計画及び予算承認の件
- 4. その他

16:30 ～ 18:00 懇親会

会費 2,000 円（当日徴収）

（ご出席頂ける方は、電子メール又は同封の連絡用ファックス用紙を使い、FAXにてお申込下さい）

2008 年度取支決算報告は紙面の都合により同窓会ホームページ (<http://dokonet.doshisha.ac.jp/>) でご覧くださいますようお願いいたします。

同窓会活動・リユニオン

同志社京田辺祭（愛称：ADAM祭～つながる ひろがる えがおの輪～）

以前、京田辺市文化祭と呼ばれ京田辺市民の方々の交流の行事をキャンパス内で、大学と共催で開催されることになったもので、京田辺市民の方々と交流を深めながら、学生・教職員・市民が一体となって、共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指しています。10月31日と11月1日2日間の“祭”期間中は、京田辺校地内にて、本学の学生・教職員をはじめ、けいはんな地区の様々な団体が演奏、模擬店、展示会、体験教室、講演会等を催し、“祭”を盛り上げます。

<http://adamfes.web.fc2.com/>

http://www.doshisha.ac.jp/students/schedule/tanabe_fes.php

ちなみに昨年の同志社京田辺祭 2008 はエドはるみのショウや風味堂トリオのLIVEが行われました。今年のスケジュールはまだ決まっておりませんが、同窓会総会開催までのお時間をお楽しみ頂ければ幸いです。同志社京田辺祭 2009 は以下のURLにてご参照下さい。

<http://www.donet.gr.jp/~adam/stage.html>

理工学部創立 60 周年記念・理工学研究所創立 50 周年

理工学部（松岡敬部長）と理工学研究所（林田明所長）は本年度創立 60 周年と 50 周年を迎え、下記の記念式を計画されている。

記

日 時：2009 年 10 月 17 日（土） 14:00～

場 所：京都タワーホテル 9 階 八閣の間

記念式：挨拶

講演 「ハリス理化学校と下村孝太郎」 同志社大学名誉教授 北垣宗治氏

「日本におけるイノベーション半導体技術、知的財産および事業開拓」

（株）半導体エネルギー研究所代表取締役 山崎舜平氏

以上

「同志社大学ホームカミングデー 2009」のご案内

<http://www.doshisha.ac.jp/alumni/info/home.html>

昨年の理工学部同窓会リユニオンは、この今出川キャンパスで行われるホームカミングデーに併せて開催いたしておりました。本年も秋天の一日、母校にて新たな出会い、思い出、そして、新たな思い入れを期しまして「同志社大学ホームカミングデー 2009」が下記のように開催されます。奮ってご参加下さい。

日 時：2009 年 11 月 8 日（日） 10 時～16 時 45 分

場 所：同志社大学 今出川キャンパス

■開会式 10:00 同志社礼拝堂 礼拝形式により実施

（「同志社創立 134 周年記念リユニオン」と共催）

■記念撮影 11:00 クラーク記念館前広場（写真を頒布します）

同窓会活動・リユニオン

学術交流とダブルディグリーシステム

<http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/wdegree/>

同志社大学工学研究科では、1998 年に日本で初めてフランスのグランゼコールであるエコール・セントラル・リールと学生交換の協定を結びました。以来、同志社大学とエコール・セントラル・リールの学生が、日本とフランスの研究室で共同研究を行い、同志社大学大学院工学研究科の修士号とエコール・セントラル・リールの特別修士号を同時取得しています。

この交流をより深く、広く進めていくために、2006 年度から新たな交流プログラムを開始しました。このプログラムでは、対象が理工学部（工学部）の在學生に広がるだけでなく、国際派エンジニアへのパスポート「技師国家資格」(Diplome d'ingenieur) や博士号 (Ph.D.) の同時取得も可能となります。また、エコール・セントラル・リールと同じエコール・セントラルグループに属する 5 つのグランゼコールとも同じ協定を結んでいます。また、2008 年度より工学部が理工学部となり本プログラムを引き継ぐとともに、新たに生命医科学部も加わりました。将来の日本とヨーロッパの掛け橋となる、新しい国際派エンジニアとしての皆さんの活躍を期待しています。

DOO ネット ～生涯続く、母校との絆～

以下の URL でご登録下さることで

<https://www.doshisha-u.net/>

生涯メールアドレスの取得やメーリングリスト、お知らせ掲示板などのサービスを利用することができます。以前の良心ネットを引き継ぎます。登録のやり直しが必要ですが、SNS 機能が向上しており、理工学部同窓会ネットワーク DoKo ネットとの連携を図っていきたく存じます。大学の希望は、卒業生の皆さんが長年培われた経験やノウハウ、人脈などを、母校のために提供して頂きたいとのことです。

- (1) 大学の教育・研究・社会活動にご協力いただくことや、関連情報を本学にお寄せください
- (2) 大学が開催する各地域での催し、同志社地域講座、講演会などにご協力ください。
- (3) お近くの方々や友人に同志社大学を紹介してください。特に、受験生層には同志社大学への進学をお勧めください。
- (4) 大学から会員に「DOO ネット」を通じて各種情報を発信します。また、広報誌 One Purpose をお届けします。

ちなみに現在工学部卒業生で登録なさっている方の数は検索機能で調べましたところ現在時点で 32 名でした。奮ってご参加下されば幸いです。そして、理工学部同窓会事務局までご連絡下さい。